

若い女性、27市町村で大幅減 2040年の本県試算

【東京支社】有識者でつくる日本創成会議(座長・増田寛也前知事)は8日、今のペースで地方から人口流出が進めば2040年に本県の27市町村を含む896市区町村で20～30代の女性人口が半分以下に減り、将来的に自治体が消滅する可能性があるとの試算を公表した。子どもを産む中心の年代が減ることで人口減少がさらに進み、自治体運営が行き詰まる懸念を指摘。東京一極集中の是正や出生率を上げる施策などを提言した。

増田氏らが都内のホテルで記者会見して発表。同会議の人口減少問題検討分科会は国立社会保障・人口問題研究所が昨年公表した将来推計人口を基に、子どもを産む中心世代である20～39歳の若年女性人口に着目した。

現在のペースで地方から都市部への人口流出が続くと想定して計算し直し、40年の若年女性の減少率(10年比)を独自に試算。震災の影響は考慮されていないが、本県は西和賀町で76.0%減、普代村75.5%減など、27市町村で50%以上の減少となった。

同分科会は、若年女性が50%以上減少する自治体は出生率が上昇しても人口の維持は困難とし、自治体機能が維持できなくなる「消滅可能性都市」と定義。さらに本県の15町村を含む全国523自治体は40年時点で総人口が1万人を切る見通し。増田氏は「このままでは消滅の可能性がより高い」と述べた。

市町村別・人口減少の将来予測

	総人口(人)		若年女性
	2010年	2040年	人口減少率
盛岡市	298,348	238,270	▲43.5%
宮古市	59,430	32,166	▲46.1%
大船渡市	40,737	22,987	▲43.9%
花巻市	101,438	68,691	▲44.0%
北上市	93,138	73,437	▲35.4%
久慈市	36,872	21,691	▲41.2%
遠野市	29,331	16,306	▲44.2%
一関市	127,642	75,024	▲41.6%
陸前高田市	23,300	12,426	▲46.7%
釜石市	39,574	19,002	▲51.5%
二戸市	29,702	17,246	▲41.8%
八幡平市	28,680	14,987	▲47.4%
奥州市	124,746	80,923	▲35.2%
滝沢市	53,857	50,903	▲5.4%
雫石町	18,033	10,476	▲41.9%
葛巻町	7,304	3,330	▲54.3%
岩手町	14,984	7,717	▲48.5%
紫波町	33,288	25,111	▲24.6%
矢巾町	27,205	20,337	▲25.3%
西和賀町	6,602	2,859	▲56.3%
金ケ崎町	16,325	13,693	▲16.1%
平泉町	8,345	4,955	▲40.6%
住田町	6,190	2,910	▲53.0%
大槌町	15,276	7,160	▲53.2%
山田町	18,617	9,040	▲51.7%
岩泉町	10,804	4,662	▲56.8%
田野畑村	3,843	1,834	▲52.3%
普代村	3,088	1,567	▲49.1%
軽米町	10,209	5,426	▲46.8%
野田村	4,632	2,413	▲48.1%
九戸村	6,507	3,579	▲45.3%
洋野町	17,913	9,101	▲49.2%
一戸町	14,187	6,698	▲52.8%

※▲はマイナス

※日本創成会議・人口減少問題検討分科会による

人口流出が現在のペースで続いた場合の推計

※若年女性人口減少率…20～39歳女性の減少割合